

添付資料- 1

2015年度CeFILインターンシップ 企業アンケート結果集計

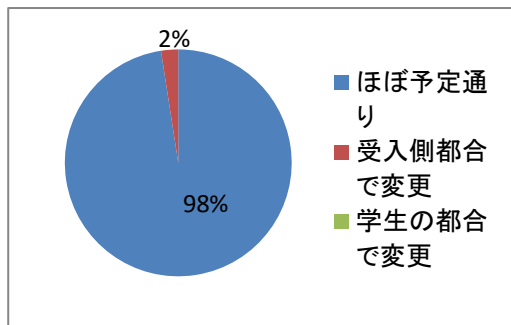
2015.10.26 CeFIL

有効回答数 41

1. 学生について

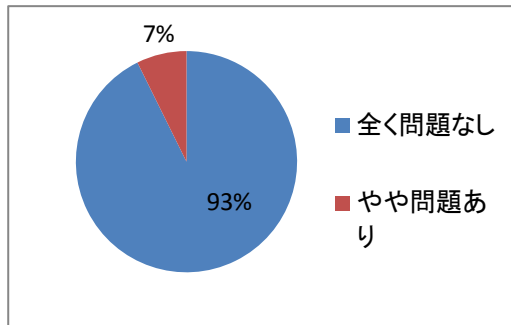
Q1-1 予定期間との差

選択項目	回答数
ほぼ予定通り	40
受入側都合で変更	1
学生の都合で変更	0
その他	0



Q1-2 就業・マナー

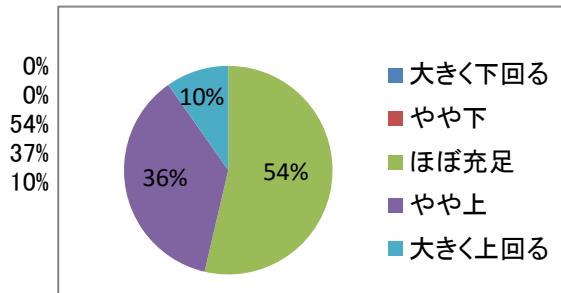
選択項目	回答数
全く問題なし	38
やや問題あり	3
大きく問題あり	0



前年度(2014年度)
全く問題なし 37
やや問題あり 0

Q1-3 スキル充足度

選択項目	回答数
大きく下回る	0
やや下	0
ほぼ充足	22
やや上	15
大きく上回る	4
平均値:	3.6



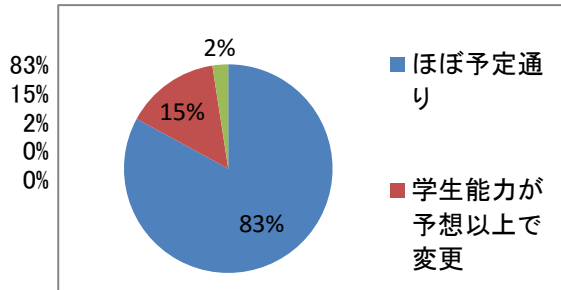
前年度(2014年度)
大きく下回る 0
やや下 3%
ほぼ充足 54%
やや上 27%
大きく上回る 16%

■ 昨年度に比べスキル充足度は同様だが、「大きく上回る」は若干低下

2014年	3.6
2013年	3.4
2012年	3.5
2011年	3.5
2010年	3.3
2009年	3.2
2008年	3.8

Q1-4 業務遂行

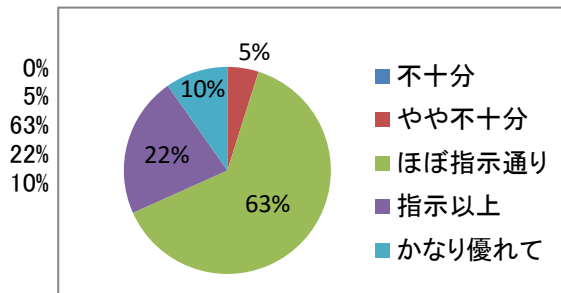
選択項目	回答数
ほぼ予定通り	34
学生能力が予想以上	6
学生能力が予想以下	1
受入側都合で変更	0
その他	0



前年度(2014年度)
ほぼ予定通り 89%
学生能力が予想以上で変更 3%
学生能力が予想以下で変更 5%
受入側都合で変更 3%

Q1-5 遂行度合い

選択項目	回答数
不十分	0
やや不十分	2
ほぼ指示通り	26
指示以上	9
かなり優れて	4
平均値:	3.4



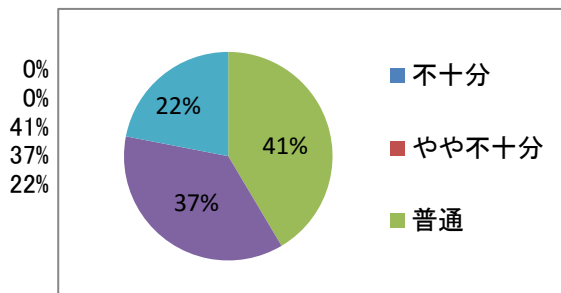
前年度(2014年度)
不十分 0
やや不十分 3%
ほぼ指示通り 51%
指示以上 32%
かなり優れて 14%

▼ 平均値が低下(3.6→3.4)、「かなり優れて」「指示以上」が低下

2014年	3.6
2013年	3.6
2012年	3.5
2011年	3.6
2010年	3.5
2009年	3.3
2008年	3.3
2007年	3.7

Q1-6 積極性

選択項目	回答数
不十分	0
やや不十分	0
普通	17
やや積極的	15
かなり積極的	9
平均値:	3.8



前年度(2014年度)
不十分 0
やや不十分 3%
普通 32%
やや積極的 49%
かなり積極的 16%

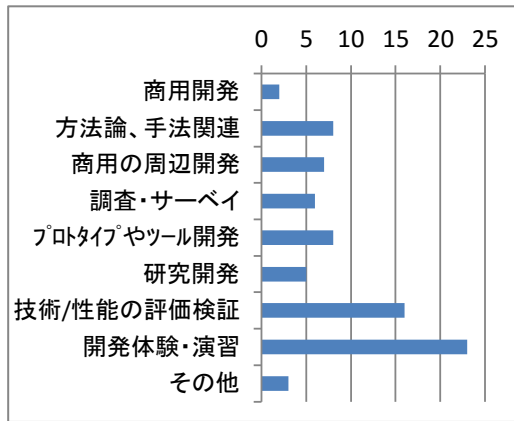
■ 「かなり積極的」は向上(16%→22%)したが
「かなり積極的+やや積極的」は低下(65%→59%)

2014年	3.8
2013年	3.9
2012年	3.8
2011年	4.0
2010年	4.0
2009年	3.9
2008年	3.9
2007年	4.0

2. アンケート(受け入れ部門)

Q2-2 担当させた業務の種類(複数回答可)

選択項目	回答数
商用開発	2
方法論、手法関連	8
商用の周辺開発	7
調査・サーベイ	6
プロトタイプやツール開発	8
研究開発	5
技術/性能の評価検証	16
開発体験・演習	23
その他	3
	78

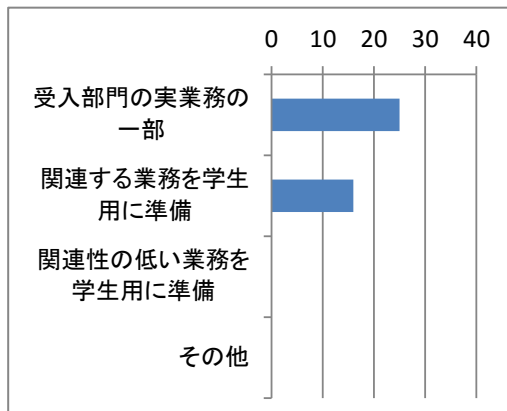


前年度(2014年度)
 ・商用開発 6 (8%)
 ・方法論、手法関連 7 (9%)
 ・商用の周辺開発 7 (9%)
 ・調査・サーベイ 11 (4%)
 ・プロトタイプやツール開発 5 (6%)
 ・研究開発 11 (14%)
 ・技術や性能の評価・検証 17 (22%)
 ・開発体験・演習 13 (17%)
 ・その他 1 (1%)

■ 昨年に比べ「開発体験・演習」が増加、「研究開発が減少」

Q2-3 担当させた業務の種類(複数回答不可)

選択項目	回答数
受入部門の実業務の一部	25
関連する業務を学生用に準備	16
関連性の低い業務を学生用に準備	0
その他	0
	41



前年度(2014年度)
 ・実業務の一部を担当させた 24 (67%)
 ・実業務に関連する業務を学生用に準備した 12 (33%)
 ・実業務とは関連性の低い業務を学生用に準備した 0 (0%)
 ・その他 1 (2%)

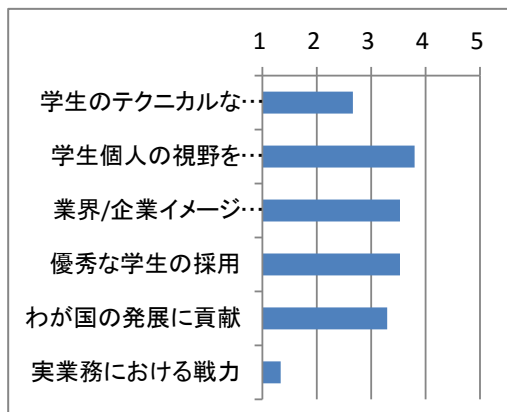
■ 昨年と同様に「実業務の一部を担当」が多い

3. アンケート(窓口部門)

Q3-1 インターンシップの受入意義

(優先度 高:5-3-1:低、0:該当せず)

選択項目	回答数
学生のテクニカルなスキルアップ	2.7
学生個人の視野を広げ、学習意欲を向上させるため(大学教育の支援)	3.8 ①
業界/企業イメージのアップ	3.5 ②
優秀な学生の採用	3.5 ②
わが国の発展に貢献	3.3
実業務における戦力	1.3
その他	

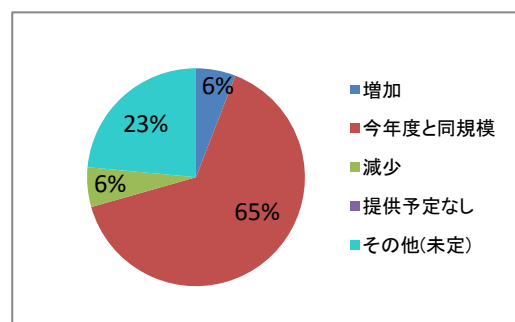


前年度(2014年度)
 ・学生のテクニカルなスキルアップを行うため(大学教育の支援) 2.8
 ・学生個人の視野を広げ、学習意欲を向上させるため(大学教育の支援) 3.3 ③
 ・IT関連職の職業イメージを持ってもらうことによる業界/企業イメージのアップ 3.7 ②
 ・インターンシップを通じて優秀な学生の採用に結び付けていくため 3.2
 ・経団連/CeFIL活動の趣旨に賛同し、広くわが国の発展に貢献するため 4.1 ①
 ・実業務における戦力として 1.4

■ 「優秀な学生の採用に結び付け」の意識が昨年に比べて少し高くなった

Q3-2 来年度の協力予定

選択項目	回答数
増加	1
今年度と同規模	11
減少	1
提供予定なし	0
その他(未定)	4

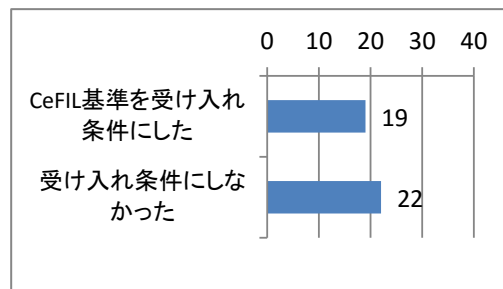


4. CeFIL基準について(受け入れ部門、窓口部門)

Q4-1 CeFIL基準と募集要項(テーマ)の関係

17社(41テーマ)	
選択項目	回答数
CeFIL基準を受け入れ	19
受け入れ条件にしな	22
	41

46%
54%



【CeFIL基準を受け入れ条件にしなかった理由】

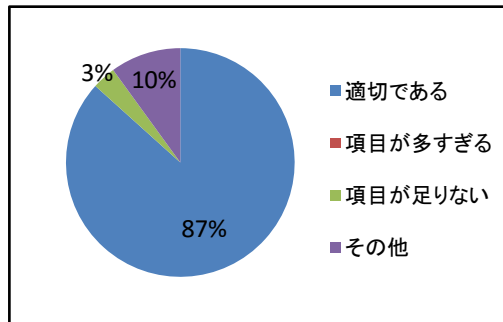
- ・ テーマ別に受入基準を設定しており、そちらを優先とした。
- ・ 募集テーマは英語力、プログラミング能力を必要としないため。
- ・ 当部が指定した条件をクリアしていれば良いと判断したため。
- ・ CeFILの基準は参考とし、本テーマに関係するスキルを重要視した。
- ・ 英語力については、今回は不要と判断したため。
- ・ 当社の要求スキルに合っていないかった。
- ・ 少しでも多くの学生に参加していただくため、必要最低限の基礎知識を参加条件とした。
- ・ 基準を満たしていなくても過去のCeFILインターンシップ生は十分優秀であったため。

※ CeFIL基準は各社のテーマとは無関係に、高度ICT人材候補生としての基礎素養として設定したものであるというCeFIL側の意図が伝わっていないと考えられる(CeFIL)

Q4-2 CeFIL基準の項目について

17社(30名)	
選択項目	回答数
適切である	26
項目が多すぎる	0
項目が足りない	1
その他	3
	30

87%
0%
3%
10%



【項目が足りない】

- ・ テーマには開発職以外のスキルを必要とするものがあるのでプログラミング能力だけでなく、IPAのITSSキャリアフレームワークに準拠した認定試験・資格を含めて頂きたいです。

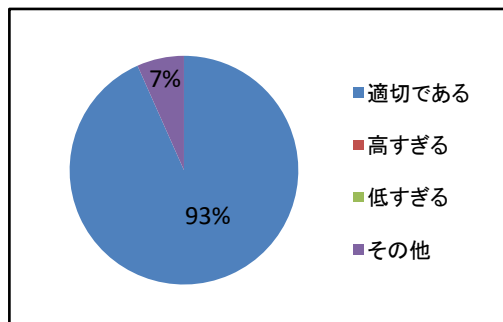
【その他】

- ・ 学生の基礎学習という面での情報としては十分だと思いますが、弊社インターンシップは様々な学生に参加いただきたいため、普段の課外活動(NPOやコンテスト経験、留学有無)等も分かると幸いです。
- ・ 今回、インターン生に英語力は求めなかったが、技術者には英語力は重要なので基準に入っているのも良いと思う。

Q4-3 CeFIL基準のレベルについて

17社(30名)	
選択項目	回答数
適切である	28
高すぎる	0
低すぎる	0
その他	2
	30

93%
0%
0%
7%



【その他】

- ・ 当社の提供テーマの要求スキルとはギャップがあるため活用しづらい。
- ・ ICT関連企業のインターンシップとしては適切な条件だと思います。ただし、今まで通り一定の基準を満たしている学生を申し込み可とする融通措置は継続いただかないと厳しいと思います。

【CeFIL基準・運営へのご意見】

- ・ CeFIL基準があることにより、書類選考での考慮は省力できる効果はある。ただし、基準内容は最低限レベル(現在のもの)で十分であり、個々に持つ強みを評価できるほうが好ましい。
- ・ CeFILの基準には特に異論はないが、一般募集とインターンシップ期間に違いがあるところは、合わせられないかと感じた。理由は、一般募集の学生と一緒に朝礼ミーティング等を実施しており、その違いが出てくるためです。

【ご意見・ご感想】

毎年、非常に優秀な学生の方に来ていただき、感謝しております。実業務で実現したいことへの対応するためのリソースとしても予定するようになりました。企業側の問題でもありますが、プログラミングだけでなく、要件開発やテスト設計、品質管理など幅広く経験できるようにする必要があるのであります。それによって、より一層、幅広い視点が持てるのではないかと期待しています。今後もぜひ継続していただければと思います。

2016年卒向け採用活動と平行しての、夏季インターンシップの企画・運営は企業側には非常に大変でした。一番学生の方々が時間の余裕のある夏季に十分な回数や人数のインターンシップを開催できないことが残念です。

【インターンシップについて】

採用・PR活動等により、弊社独自のインターンシップ受入に向けた対応が遅れたため、テーマの提出が大幅に遅延したものの、受入時期としては夏季休暇中が望ましいと考える。

【選考時期の繰下げについて】

例年同様2~3月等選考解禁以前に内々定を出している一部企業がある中で、繰下げにより内々定取得時期がこれまで以上に遅くなるため、早期に内々定した企業に就職先を決定する学生もいることから、繰下げによる内々定取得時期の差が大きくなることは非常に不利であったと考える。

また、弊社内定者にヒアリングしたところ、前年夏季のインターンシップから就活が始まっており、今までより期間が長くなったことに加え、企業により選考時期が異なり就活に多くの時間を取られたとの意見が聞かれた。

17年卒については、選考解禁日の早期化、または解禁日の厳守を望みたい。